



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ランチ札幌月寒 C棟	階数	2
建設地	札幌市豊平区月寒東3条11丁目21-5の内	構造	S造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	0 人
建物用途	学校、物販店、集会所	年間使用時間	2,800 時間/年(想定値)
竣工年	2019年2月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	3,860 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2018年9月10日
建築面積	2,338 m <sup>2</sup>	作成者	
延床面積	2,968 m <sup>2</sup>	確認日	2018年9月10日
		確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.5** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

環境品質 Q

環境負荷 L

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

① 参照値	100%
② 建築物の取組み	87%
③ 上記+②以外の	87%
④ 上記+	87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア= 2.3**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.1

音環境	1.6
温熱環境	2.1
光・視環境	2.3
空気質環境	2.3

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.5

機能性	1.9
耐用性	2.8
対応性	3.1

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.4

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.0

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 2.6**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.4

建物外皮の	1.0
自然エネルギー	3.0
設備システ	2.8
効率的運用	2.5

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.7

水資源保護	2.2
非再生材料の	2.8
汚染物質回避	3.0

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9

地球温暖化	3.5
地域環境	3.0
周辺環境	2.2

### 3 設計上の配慮事項

<b>総合</b> 植栽を多くすることで、森の中の商業施設をコンセプトとする。	<b>A 省エネルギー</b> 建築物省エネルギー法の基準を満たす計画とする。 LED照明を使用する。
<b>B 省資源等</b> 再利用可能廃棄物保管所を設け、分別をおこなう。	<b>C 緑化</b> 緑化率30% (札幌市基準) を確保する。
	<b>D 雪処理</b> 降雪時は適切に排雪をおこなう。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3)  
 (仮称)ランチ札幌月寒 C棟

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)  
 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								2.3
Q1 室内環境								2.1
1 音環境			1.6	0.15	-	-		1.6
1.1 室内騒音レベル			1.0	0.40	-	-		
1.2 遮音			2.6	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能			3.0	0.80	-	-		
2 界壁遮音性能			1.0	0.09	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			1.0	0.06	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			1.0	0.06	-	-		
1.3 吸音			1.0	0.20	-	-		
2 温熱環境			2.1	0.35	-	-		2.1
2.1 室温制御			3.2	0.50	-	-		
1 室温			3.0	0.49	-	-		
2 外皮性能	省エネ		3.0	0.26	-	-		
3 ゾーン別制御性		各室に個別空調を設ける	4.0	0.25	-	-		
2.2 湿度制御			1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式			1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境			2.3	0.25	-	-		2.3
3.1 昼光利用			4.0	0.38	-	-		
1 昼光率			-	-	-	-		
2 方位別開口			-	-	-	-		
3 昼光利用設備	省エネ	窓を設ける	4.0	1.00	-	-		
3.2 グレア対策			1.0	0.09	-	-		
1 昼光制御	省エネ		1.0	1.00	-	-		
2 映り込み対策			-	-	-	-		
3.3 照度			3.0	0.11	-	-		
3.4 照明制御			1.0	0.43	-	-		
4 空気質環境			2.3	0.25	-	-		2.3
4.1 発生源対策			3.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質			3.0	1.00	-	-		
4.2 換気			2.0	0.30	-	-		
1 換気量			3.0	0.50	-	-		
2 自然換気性能			-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮			1.0	0.50	-	-		
4.3 運用管理			1.0	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視			1.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御			1.0	0.50	-	-		

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	2.5
<b>1 機能性</b>			<b>1.9</b>	0.40	-	-	<b>1.9</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1	広さ・収納性			-		-	
2	高度情報通信設備対応			-		-	
3	バリアフリー計画		1.0	1.00		-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>1.6</b>	0.30	-	-	
1	広さ感・景観 (天井高)		3.0	0.27		-	
2	リフレッシュスペース		2.0	0.13		-	
3	内装計画		1.0	0.60		-	
<b>1.3 維持管理</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	管理者が常駐	4.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>2.8</b>	0.30	-	-	<b>2.8</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>2.8</b>	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	1.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源 耐久性があるものを使用	4.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
<b>2.4 信頼性</b>			<b>2.6</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	各室にk別空調を設ける	5.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.1</b>	0.30	-	-	3.1
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.4</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		十分な階高を確保	5.0	0.40	-	-	
2 空間の形状・自由さ		ラーメン構造を採用(耐力壁無し)	4.0	0.60	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>2.2</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			2.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			2.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			1.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	2.4
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	緑化		1.0	0.30	-	-	1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	2.6
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	2.4
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	省エネ	断熱サッシを使用	1.0	0.20	-	-	1.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>	省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.84	2.8	0.50	-	-	2.8
<b>4 効率的運用</b>			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	2.7
<b>1 水資源保護</b>			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	躯体と仕上材は接着剤を極力使用しない	5.0	0.20	-	-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-		
1	消火剤	省資源	-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	3.0	0.50	-	-		
3	冷媒	省資源	3.0	0.50	-	-		
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>2.9</b>	
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		省資源	省エネの設備機器を使用		<b>3.5</b>	0.33	-	<b>3.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>	
2.1 大気汚染防止		省資源	<b>3.0</b>	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 数値 算出	<b>3.0</b>	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減	省資源	3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制		十分な広さの駐車場を確保		5.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 算出	2.0	0.25	-	-		
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.2</b>	0.33	-	-	<b>2.2</b>	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1	騒音		3.0	1.00	-	-		
2	振動		-	-	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>1.0</b>	0.40	-	-		
1	風害の抑制		1.0	1.00	-	-		
2	砂塵の抑制		植栽を多くする、舗装をする		5.0	-	-	
3	日照阻害の抑制		-	-	-	-		
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-		
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

# CASBEE札幌



## 重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

1 建物概要					
建物名称	(仮称)ランチ札幌月寒 C棟	BEE	0.5	BEEランク	B <sup>-</sup>
建物用途	学校,物販店,集会所,				
延床面積	2,968.0 m <sup>2</sup>				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	<b>最重点項目</b> <b>省エネルギー</b>	★★★★☆	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下            ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下            ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下            ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下            ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
<b>A 省エネルギー</b> ( 最高点 23.3 最低点 7.1 )		<b>合計</b>		<b>11.8点</b> /23.3点	
Q1 温熱環境	スコア	0.6 /1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	0.8 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.6 /2.3	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	5.6 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.0 /4.0
<b>B 省資源等</b> ( 最高点 23.7 最低点 7.7 )		<b>合計</b>		<b>14.4点</b> /23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.0 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3 /1.9
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.5 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.6 /4.4
<b>C 緑化</b> ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )		<b>合計</b>		<b>7.4点</b> /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3			
<b>D 雪処理</b> ( 最高点 3.0 最低点 0 )		<b>合計</b>		<b>2.0点</b> /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数  
 ■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数